

大阪府がん対策推進委員会平成 26 年度第 2 回がん検診・診療部会（概要）

1 日 時：平成 27 年 2 月 24 日（火）午後 6 時～

2 場 所：大阪がん循環器病予防センター

3 議 事

（1）がん検診精密検査依頼書兼結果報告書様式について

（2）がん検診精密検査受診率について

（3）平成 26 年度精度管理センター事業の実施報告と 27 年度の取組について

（4）第二期大阪府がん対策推進計画の取組について

（5）その他

4 委員からの意見要旨及び質疑応答

（1）がん検診精密検査依頼書兼結果報告書様式について（資料 1-1、1-2）

⇒事務局より平成 25 年度作成・発出した子宮頸がんの様式の市町村での使用状況を報告。胃・大腸・肺・乳がん検診精密検査依頼書兼結果報告書様式の作成方法及び内容について説明し、統一様式の内容及び市町村への発出について承認を得た。

○がんであった場合の治療法の記載について、乳がんは内分泌療法や分子標的治療など細かな分類になっているのに対し、胃がんなどは外科的切除、内視鏡的切除、その他と分類が少ないように思う。今後、化学療法等追記できないか検討してほしい。

（2）がん検診精密検査受診率について（資料 2-1、2-2）

⇒これまでの経緯及び平成 24 年度の精検受診率を報告し、平成 24 年度の精検受診率が許容値を下回る市町村へ、受診率向上のための取組みを促す文書を発出することについて、承認を得た。

○全国的に大腸がん検診精検受診率は同じ消化器の胃と比べても低く、あまり改善もしておらず、また低い理由についてよくわからない状況。府の取組みとして、前年と比べ精検受診率が上がった市町村の要因を調べると、大阪発の解決策が出てくるかもしれない。

○昨年度文書を発出後、該当の市町村はどういう取り組みを行ったのか。何もしていない市町村には指導や訪問調査を行うなど、改善について詳しく調査をしていかないと、文書を発出しただけでは効果がないのではないかと。

⇒昨年度府からの文書を受けて、個別医療機関に対し、要精検者への勧奨・精検受診有無の把握・精検結果の市町村への報告を徹底するよう通知の発出を行った市町村を確認した。昨年度の文書発出による改善状況は、精検受診率が 2 年度遅れで確定することから、28 年度にならないと判明しない。来年度は精検の勧奨方法や結果の把握方法に関して、市町村へアンケートを実施し状況把握に努め、精度管理センターで行う個別市町村支援等によって、精検受診率向上につなげていきたいと考えている。

○松原市は受診勧奨を随分やっており、効果も若干だが出ているようだ。一方で堺市はひど

い受診率。

○堺市についてはネットワーク協議会の活用を検討すべき。

○精検受診率が低い市町村は、そもそも要精検率が高いなど一次検診の精度管理に問題があるのではないか。

⇒平成 24 年度の要精検率については、精検受診率が低い市町村においても府平均と比べ異常に高いというものではない。

(3) 平成 26 年度精度管理センター事業の実施報告と 27 年度の取組について (資料 3)

○市町村や検診実施機関の相談・支援等、非常に多岐にわたる取組みは府独自のもの。よい取組みであると感じている。

○市町村の行う検診について、委託機関ごとのデータも収集しているとの話であったが、委託機関ごとに精度のばらつきはあるのか。また、どの程度か。

⇒大腸がん検診の要精検率が 20% 近くになっている検診機関が存在するなど、ばらつきはある (許容値は 7.0% 以下)。市町村にはその状況を伝え、原因を調査する必要があるとは助言している。

○受診率向上には個別受診勧奨・再勧奨が重要と聞いている。再勧奨まで実施している市町村はどの程度あるのか。またその勧奨方法は把握しているのか。

⇒国庫補助事業であるがん検診推進事業において、再勧奨を実施している市町村は、平成 25 年度で 31 市町村であった。再勧奨方法等については、来年度アンケートを実施し把握に努め、また、効果的な受診勧奨方法については、研修会にて情報提供を行っていく。

(4) 第二期大阪府がん対策推進計画の取組について (資料 4、資料 4 別紙)

⇒平成 26 年度の取組み状況及び平成 27 年度の取組みについて、承認を得た。

○国民生活基礎調査の検診受診率が大幅に上昇しているが、これはアンケートのフォーマットが大幅に変わったことが原因。都道府県から国にフォーマットを変えないでほしいとの要望はできないのか。地域保健・健康増進事業報告の検診受診率はほとんど変わっていないのに、3 年で 2 倍になるのではデータとして信頼度に欠けるし、何をしているのかさっぱりわからない。

○子宮頸がん検診の精密検査については、CIN 分類を行うためにコルポスコピーによる検査が必要となる。診療報酬が低いという課題があり国に要望しようとしているが、現状では設置台数の把握さえ難しい状況。胃や大腸のキャパシティー調査も行ったので、コルポスコピーについても大阪で一度調査をやってみてはどうか。

○コルポスコピーをせずに細胞診だけでフォローアップしているところがあるようだが、精度管理として重要な問題。

○部会としての課題との認識のもとで検討を考えていく必要がある。

⇒大腸のように精検について検査内容が盛り込まれておらず、市町村からもキャパシティーが不足しているとの声もないため、今後も動きを見ながら検討していきたい

○平成 25 年度にがん検診推進事業の中で、HPV 検査の実施についても募集をかけたようだが、大阪府はどこも参加しなかったと聞いている。研究事業においてモデル実施は大変重要なことなので、府に依頼があった場合は市町村に積極的に呼びかけをすべきと思う。

- がん検診及び精密検査の受診率をあげるには、検診の利便性が非常に作用しているのではないか。
- 特に精検受診率は利便性と自治体の取組みに問題があるのかなと感じたため、しっかりと調査を行い、精度の向上しないところには調査するだけでなく指導も行ってほしい。
- 患者会としても行政や医療関係者と一緒になって検診受診率向上の取組みを進めたい。精度管理センター事業も良い取組みなのでより一層の充実をお願いしたい。

以上